

国土舘大学体育・スポーツ科学学会

第1回

国土舘救急救命士会フォーラム

テーマ：

国土舘大学が輩出する救急救命士の将来像



プログラム・抄録集

共催：国土舘大学体育・スポーツ科学学会
国土舘大学体育学部スポーツ医科学科
協力：国土舘大学大学院救急システム研究科



Kokushikan

国士館大学体育・スポーツ科学会

第1回 国士館救急救命士会フォーラム

ご挨拶

国士館大学体育・スポーツ科学会 会長
国士館大学体育学部 学部長
国士館大学体育学部 スポーツ医科学科 教授



山口 嘉和

第1回国士館救急救命士会フォーラムを開催するにあたり、皆さまにご挨拶を申し上げます。

本学スポーツ医科学科は2000年に、当時の学部長でありました大澤英雄理事長と、初代学科主任の故天羽敬祐先生のご尽力のもと、創設がされました。

本学スポーツ医科学科は、日本で初めて4年制大学における救急救命士養成課程であり、これまで2,813名の卒業生を全国に輩出してきました。その卒業生は、消防機関をはじめとする公的機関や医療機関、民間企業及び、教育機関など全国でご活躍されています。今回、7名の卒業生をお招きし、ご講演を頂く予定となっております。

さて、本日開催されますフォーラムのプログラム構成ですが、二部構成となっております。第一部では、卒業生で現在、本学科の准教授であります高橋宏幸先生と喜熨斗智也先生の司会のもと、各分野でご活躍される7名の卒業生より「卒業生の今」というテーマのもと、ご講演をして頂きます。コロナ渦ではどの分野においても、大変ご苦労されていることと推察します。リアルな現場のご事情についてお話しを頂戴できればと思います。

また、第二部では、現在、スポーツ医科学科の主任として改革を推し進めている牧亮先生の司会のもと、本年3月末で残念ながら定年退職をされます、村岡幸彦先生、内藤祐子先生、吉岡耕一先生、芦沢猛先生より、「退職教員最終講話」と題してご講演を頂戴いたします。過去の様々なエピソードについてご講演を頂く予定です。どのようなエピソードをお話し頂けるのか、私個人としても非常に楽しみにしております。

最後に、本フォーラムが在校生と卒業生の情報共有の場となり、今後のスポーツ医科学科の発展につながることを祈念いたします。

プログラム

■ 開 会 13:00

山口 嘉和(国士舘大学体育・スポーツ科学学会 会長)

■ スポ医卒業生の今 13:05～14:50

司会:高橋 宏幸(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 准教授)
喜熨斗智也(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 准教授)

高川 昌也 (2期生) さいたま市消防局
横地 雄介 (3期生) 東京消防庁
白川 透 (5期生) 日本救急システム株式会社
三瓶 祐次 (9期生) 東京大学医学部附属病院 組織バンク
平岩 竜之介(10期生) 横須賀共済病院
夏坂 航平 (11期生) 日本ストライカー株式会社
佃 静 (13期生) さいたま市立川通小学校

■ 休 憩 14:50～15:05(15分)

■ 退職教員最終講話 15:05～16:30

司会:牧 亮(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 学科主任)

村岡 幸彦 先生(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 教授)
内藤 祐子 先生(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 教授)
吉岡 耕一 先生(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 教授)
芦沢 猛 先生(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 准教授)

■ 閉 会 16:30

牧 亮(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 学科主任)

スポ医卒業生の今

スポ医卒業生の今

1. 高川 昌也 (2期生) さいたま市消防局

「救急隊に求められるもの～これまでの経験から～」

平成17年3月に国土館大学を卒業し、同年4月にさいたま市消防局に入職しました。消防隊、救急隊、本部（警防部救急課）、総務省消防庁（救急企画室）などを経て、現在は現場の救急隊長として勤務しています。入職して18年目となり、様々な立場で、多種多様な災害を通して、多くの喜びや悲しみ、悔しさを経験してきました。市民の方々が、私たち消防、救急隊に何を求めているのか。救急救命士として、どのような姿が理想なのか。私自身もその正解を探しながら、毎日仲間たちと切磋琢磨しながら働いています。救急救命士として、どのような職場で勤務するか迷っている人もいると思います。これからの未来を担う学生の皆さんに、私がこれまでの経験から得たものを少しでも伝えられればと思っています。そして、近い将来、さいたま市消防局と一緒に働けることを楽しみにしています。

2. 横地 雄介 (3期生) 東京消防庁 目黒消防署

『世界都市「TOKYO」を守る東京消防庁の任務について』

およそ1,400万人もの人々が暮らす世界都市「TOKYO」。

多くの人々が暮らすだけでなく、首都としての機能が集約されるとともに、グローバルな人々の往来、経済活動が盛んに行われています。そんな「東京の街」をあらゆる災害から守るために約18,000人の職員が日々高い使命感を持ち、昼夜問わず職務に励んでいます。

2007年に国士舘大学を卒業した私はその後、東京消防庁[※]へ入庁し、現在14年が経ちます。救急救命士フォーラム当日は、当庁の多種多様な分野で活躍するスポーツ医科学科の卒業生を紹介するとともに、救急隊長、救急隊員、救急機関員の私の実務経験談ほか、外部機関への派遣、特定の消防署に属さない救急機動部隊の任務、組織のアップデートを図る本庁救急部計画係の職務、また、東京2020大会成功に向けた当庁の施策など、これまでの経験をもとに皆様へお伝えできればと思っています。

新型コロナウイルスの収束が依然として見通せない中、新たな生活様式により学生生活を送られている在校生や教職員の方々へ、自身の目標や進路選択、教育方法の一助となれば幸いです。

そして明日の「東京の未来」を支えるチカラとなり、共に働ける日々を楽しみにしています。

※【東京消防庁の現況】

○救急活動体制 (令和4年4月1日現在)

- ・救急隊員 2,650人 (うち救急救命士資格者 2,040人)
- ・救急隊数 271隊 (デイトム救急隊4隊を除く。)

○救急活動 (令和3年中)

- ・救急出場件数 743,703件
- ・1日平均 2,038件 (42秒に1回の出場)

3. 白川 透 (5 期生) 日本救急システム株式会社

「日本救急システム株式会社の取り組み」

【救急搬送業務】日本救急システム株式会社(以下、当社)は常備消防を設置していない自治体からの委託を受け、日本で初めて民間救急救命士による救急搬送業務を開始した。現在、宮崎県美郷町(2015 年～)、徳島県勝浦町(2017 年～)、沖縄県竹富町西表島(2020 年～)の 3 自治体で業務を行っている。119 番通報に対し救急車(緊急走行)で現場へ出場し、メディカルコントロール体制下で特定行為を含む救急救命処置を実施している。へき地・離島における医療格差是正、救急救命士の雇用創出・維持を目標に日々精進している。2023 年 2 月現在、32 名の救急救命士が当社に在籍している。【救急救命士国家試験対策模擬試験作成販売】当社は、2015 年より救急救命士国家試験対策模擬試験の作成販売を開始し、2022 年度は救急救命士養成校 22 校に販売している。【救急救命士国家試験対策アプリ作成販売】当社は、2014 年より救急救命士国家試験対策アプリの作成販売を開始し、現在は「救急救命士国家試験対策 Quiz」という 3 択クイズ(1500 問収録・解説付き)アプリを販売している。(iOS 版、Android 版)【救急救命士国家試験対策講義オンデマンド配信】当社は、2022 年 12 月より救急救命士国家試験対策講義のオンデマンド配信「救ヨビ」を開始した。現在は、リリース前の試作段階であり、モニター受講生を対象に無料で配信している。【おわりに】国士舘大学では本当に多くのことを学ばせていただきました。国士舘大学で学んだことを社会に還元できるよう、これからも精進していきたいと思います。【当社在籍の国士舘大学卒業生一覧:2023 年 2 月現在】体育学部スポーツ医科学科 5 期:白川透、7 期:後藤奏、8 期:長谷川瑛一、9 期:川口惇、10 期:松下菜津実、11 期:中尾誠宏、中村俊貴、12 期:浅川陽介、加藤清繁、土手力、13 期:長谷川汐里(旧姓:藤井)、大学院卒:大谷浩史

4. 三瓶 祐次（9 期生） 東京大学医学部附属病院 組織バンク

「東京大学医学部附属病院組織バンクにおける 移植コーディネーター業務」

東京大学医学部附属病院組織バンクは、1998 年に「心臓弁・血管」の組織バンクとして発足し、3 名の専属移植コーディネーター(以下 Co.)が在籍し運営されている。2018 年には新たに「骨」の取り扱いを開始しており、心臓外科、肝胆膵・人工臓器移植外科、整形外科等の複数診療科と連携し業務を進めている。また、在籍する Co.は、「院内 Co.」としても指名されており、専門とする組織提供にとどまらず、院内で発生した臓器提供症例にも対応している。移植 Co.には様々な種別があり、その立場によって業務内容や必要とされる資格、経歴は異なる。膵島、心臓弁、血管、皮膚や骨等の移植を専門とする「組織移植 Co.」は全国で約 30 名活動しており、それぞれが各専門の組織バンクに在籍している。組織移植医療は、いわゆる臓器移植法の対象には含まれていないが、提供に際しては臓器移植医療と同様に Co.によるインフォームド・コンセントが必須となる。法的規制からは外れるものの、日本組織移植学会のガイドラインに基づいた対応が求められており、組織移植 Co.は同学会の認定資格の取得が必要とされている。組織移植 Co.は、遺族等に対してのインフォームド・コンセントのみならず、医学的適応の判断や評価を行うための医療情報の収集や、摘出手術へ向けた連絡調整、手術室内での外回り業務や記録など多岐にわたって活躍している。また、提供された組織を 24 時間体制で保管・管理し、全国の移植需要に対して供給をおこなっている。臓器や組織を提供されるドナーとなりうる患者は、医学的条件の特性から救命救急センターや ICU などに入院されている割合が多い。そこで、救急医療の領域を専門とする救急救命士資格を取得した人材が移植 Co.の業務にあたることは意義が大きいと実感している。特に、限られた時間の中で医学的情報や搬送から入院後までの経過を総合的に把握・伝達し、提供や移植の適応の判断につなげる力は移植 Co.に求められる資質といえる。

5. 平岩 竜之介（10 期生）横須賀共済病院

共同演者：小野 優太（横須賀市消防局：スポ医 9 期卒）

堤 和賀弥（逗子市消防本部：スポ医 10 期卒）

神田 勇太（葉山町消防本部：スポ医 10 期卒）

「地域中核病院に勤務する救急救命士の役割」

当院は神奈川県横須賀市にある救命救急センターを有する救急指定病院で、横須賀市消防局、葉山町消防本部、逗子市消防本部を中心に昨年度の救急受入台数は 11,445 台と三浦半島地区の中核病院である。今年度より救急外来のスタッフ増員を目的に、1 名の医師事務作業補助者資格を有する救急救命士が採用された。主な業務内容としては、救急外来において医師とともに診療業務を行ない、医師事務作業補助者資格を活かし、カルテ記載、オーダーリングの代行、診療情報提供書の作成等行なっている。また、地域連携センターと協力し、近隣医療機関からの患者受入対応や当院で受け入れた患者の転院調整を行なう等、他職種との協働した業務も行なっている。今年度は、院内メディカルコントロール体制を確立することができ、院内外での救急救命処置を行なうことが可能となったことにより、業務の幅を増やすことができた。今後の院内救命士の役割を考えていくと、病院救急車の運用と救急隊との相互的なフィードバックを行なう体制づくりが必要となる。病院救急車は着任前から運用が行われていたが、事務職員が運行しているため、ほとんど活用できていなかった。転院搬送は消防局に頼りきりであるため、自院で完結させることにより救急隊の負担軽減に繋がると考えられる。また、救急隊への搬送症例を通じ、院内経過や活動の振り返りとして同じ救急救命士の目線で伝え、医療機関側へのフィードバックをもらうことで、現場活動の質の向上やスムーズな受入体制を構築することに繋がり、プレホスピタルから繋がりのある医療が提供できると考えられる。近隣消防にはスポーツ医科学科の卒業生が多く所属している。救急隊と医療機関が協同し活動していくために、スポ医卒業生が中心となっていけない始めた取り組みを含め当院の救急救命士の活動を報告する。

6. 夏坂 航平 (11期生) 日本ストライカー株式会社

「医療機器メーカーに勤める「救急救命士」として どのように救急医療に貢献できるか」

【背景】救命士法の改訂により、消防機関を主な就職先としていた「救急救命士」にとって病院でも働く選択肢が増えた。しかしながら、大学で学んだ救急医療の知識を臨床以外で活かすという選択肢がまだ少ない。

【目的】自身の卒業後の経歴、経験、背景、業務内容を発表することにより、医療機器メーカーを始め、一般企業でも「救急救命士」の資格を活かす仕事ができる事を伝え、学生達に就職の選択肢を増やすきっかけとする。

【方法】国士舘大学救急救命士フォーラムにて上記の発表。【結果】一般企業でも自身が取得した「救急救命士」を活かせる事を理解し、各企業へ就職すること。間接的に救急医療に携わり、各消防機関、病院の「救急救命士」と連携を取ることで、救急医療の発展へ貢献する。

【考察】救急医療現場における臨床面からの観点と、企業としての Vision, Mission, Value, 機器のエビデンスに基づく観点が合致することにより、様々な考え、新しい方針が生まれる。結果として、救急医療の発展へ繋がるのではないか。

【結論】企業への就職でも「救急救命士」の国会資格を活かした仕事ができる。

7. 佃 静（13 期生）さいたま市立川通小学校

「安全安心な学校を目指して

～さいたま市立学校の養護教諭としての取組～」

平成 28 年に国士舘大学を卒業し、さいたま市の養護教諭として勤務するようになり 7 年目。これまで 3 校の小学校で勤務してきました。さいたま市では「学校中が救命サポーター」となれるよう教職員校内研修の充実、児童生徒への救命教育に取り組んでいます。救急救命士フォーラム当日は、さいたま市の取組を踏まえて、小学校勤務での実践やこれまでの経験、感じてきたこと等をお伝えできればと思っています。教育現場も救急救命士として活躍できる場のひとつとして参考にさせていただけたら幸いです。

退職教員最終講話

退職教員最終講話

1.村岡 幸彦 先生(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 教授)

～略歴～

- 1979年 東京医科歯科大学 医学部 医学科
- 2001年 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 教授
- 2004年 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 学科主任
- 2021年 国士舘大学体育学部 学部長
- 2022年 国士舘大学 副学長



～担当科目～

- 外科学1
- 外科学2
- 疾病救急医学各論3(腎泌尿系・血管血液系・感染症・皮膚)
- 卒業研究2
- 救急医学教育特論
- 救急外傷学特別研究
- 救急倫理・統計・プレゼンテーション演習
- 救急倫理・統計・プレゼンテーション演習 I
- 救急倫理・統計・プレゼンテーション演習 II

退職教員最終講話

2.内藤 祐子 先生(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 教授)

～略歴～

- 1977年 共立薬科大学(現:慶応義塾大学) 薬学部 薬学科
- 1994年 国士舘大学体育学部体育学科 准教授
- 2000年 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 准教授
- 2006年 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 教授



～担当科目～

- こども栄養学
- スポーツ栄養学
- 栄養学
- 生化学・微生物学(免疫学を含む)
- 卒業研究1
- 卒業研究2
- スポーツ栄養学特論
- 救急栄養学特論
- 救急倫理・統計・プレゼンテーション演習
- 救急倫理・統計・プレゼンテーション演習 I
- 救急倫理・統計・プレゼンテーション演習 II
- 災害・防災危機管理システム特別演習 I
- 災害・防災危機管理システム特別演習 II
- 災害・防災危機管理システム特別演習 III
- 災害・防災危機管理システム特別研究

退職教員最終講話

3. 吉岡 耕一 先生(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 教授)

～略歴～

1981年 東京医科歯科大学 医学研究科 博士 修了
2006年 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 教授



～担当科目～

自然科学(生物系A)
自然科学(生物系B)
生理学(遺伝学を含む)
卒業研究2
薬理学
救急・蘇生統計学特別研究
救急倫理・統計・プレゼンテーション演習
救急倫理・統計・プレゼンテーション演習 I
救急倫理・統計・プレゼンテーション演習 II
病院前救急薬理学特論

退職教員最終講話

4. 芦沢 猛 先生(国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 准教授)

～略歴～

- 1977年 国士舘大学 政治学部政治学科
- 2012年 東京消防庁 西東京消防署 警防課長
- 2014年 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 講師
- 2018年 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 准教授



～担当科目～

- キャリアアップ実践講座
- コミュニケーション演習 I
- コミュニケーション演習 II
- 救急救命処置概論
- 救急救命処置実習1
- 救急処置実習D(事例研究)
- 卒業研究2
- 救急倫理・統計・プレゼンテーション演習
- 救急倫理・統計・プレゼンテーション演習 I
- 救急倫理・統計・プレゼンテーション演習 II
- 国内救急医療体制演習

